

# 「赤羽根学園」の紹介

林 俊 光

(佛教大学社会学部助手)

赤羽根学園は、昭和三三年、社会福祉法人「光輝会」によって設置された虚弱児施設である。

同学園は、国鉄の豊橋駅から、バスで約一時間の所、三河湾に知多半島と向い合って延びている渥美半島の中程にある赤羽根町の高台で、遠州灘を望む所に位置している。新保輝男園長先生の話によると「とにかく強い風がよく吹く所」だそうであるが、訪問させていただいた日は、風もないおだやかな日であり、眼下には赤羽根町の田園風景が広がり、その向うにはどこまでも続く青い海が望まれた。

「赤羽根学園」は、児童福祉法に基づく児童福祉施設一種類（同法第七条）の一つである「虚弱児施設」である。

虚弱児施設は、昭和五七年一〇月現在で全国都道府県で僅

か三三施設しか設置されていない数少ない施設である。

## ○虚弱児施設について

虚弱児施設は、現時点では、一般的に余りなじみのない施設であるといえる。それは、数の点で、三三カ所ということもさることながら、それが都道府県数では二三都道府県（四八・九％）でぎりぎり半数程度であり、残りの二四県（五一・一％）には一施設も設置されていない、ということからしてある程度やむを得ない状況なのかもしれない。そこで「虚弱児施設」について若干説明を加えておきたい。

児童福祉法は、その第四三条の二において、「虚弱児施設」とは、身体の虚弱な児童に適正な環境を与えて、その健康増



正面玄関

進を図ることを目的とする施設とする」と定義づけている。筆者の浅学ゆえに、この定義を読んでも、「虚弱児」というイメージが今一つ沸かないのである。それ故、自分自身の為にも「虚弱児」とはどのような児童のことなのか説明を続けたい。

まず、△虚弱▽とは「医学用語ではなく、もともと学校教育分野における用語で、一般児童に伍して教育訓練を課せられない状態を指すものとして使用されていた<sup>(1)</sup>」であり、△虚弱児▽とは、どのような児童をいうのかをみると「特にこれといった固定した疾病の状態ではないが、一般に病気にかかりやすく、罹病すれば悪化しがちで、疲労度も高い児童。疲労の回復も遅く、頭痛、腹痛、下痢の症状をくりかえすこともある。全体として、発育不全、栄養不良、貧血などが認められ、△不定愁訴▽といわれるものを含めて精神的にも不安定な場合が多い。結核発病のおそれのあるもの、結核の後期間中のもの、先天的な体質に異常のあるものも含まれる<sup>(2)</sup>」とある。結論的には今一つ具体的状態を捕まえない状況の児童ともいえよう。更に、児童福祉法が施行された昭和二三年の五月に東京都が収容の基準とし、厚生省も同意した

ものがあるので、年代的にはいささか古く、時代的背景からみて、現在もそのまま有効であるとはいいい難いが、大筋、児童のイメージはつかめるのであえて挙げておきたい。<sup>(3)</sup>

#### 虚弱児とは

- 一、ツベルクリン皮内反応陽性転化後発病の危険大なる状態にある小児
- 二、ツベルクリン皮内反応陽性の乳児及四才未満の幼児
- 三、結核家庭の幼児にして感染の危険性大なるもの
- 四、神経質の小児
- 五、体質異常又は体質性疾患ある小児
- 六、貧血性的小児
- 七、特に認められる疾患がなくても発育のゆるい小児
- 八、特に認められる疾患がなくても微熱のある小児
- 九、感冒にかかりやすい小児
- 十、下痢をしやすい小児
- 十一、筋骨が薄弱な小児
- 十二、其他医師の診断で虚弱体質と認められた小児

以上挙げたような、虚弱体質の児童（いわゆる虚弱児）に「適正な環境を与えて、その健康増進を図る」のが目的の虚弱児施設は、保護・養護・治療などを目的としている他の児童福祉施設とは趣きを異にした、児童厚生施設と似た種類の施設であり、どちらかといえば、児童の環境の設定が主要なことでされているといえる。それ故、当然のことながら、小児慢性特定疾患に罹っている児童は、児童福祉施設ではなく医療施設で治療を受けることとなる。

#### ○「赤羽根学園」

##### (一) 設立の目的

- (1) 児童福祉法第四三条の二による収容保護施設  
虚弱児施設は身体の虚弱的な児童に適正な環境を与えてその健康増進を図ることを目的とする施設とする。
- (2) 仏教特に法然上人の教えによる情操教化、児童福祉保護育成に対する相談指導等。

##### (二) 沿革

この事業は、宗教法人「光輝院」の教化育成事業として、



当時の住職神谷常俊師個人が昭和二三年児童福祉法の施行による、里親制度において里子を養育されたところに端を発するのである。

翌二四年にこれが養護施設開設財団法人へと発展し、更に二六年の社会福祉事業法の制定により、社会福祉法人光輝会となつて、養護施設光輝寮が設置されたのである。この光輝寮に収容されている児童の中に、身体的に虚弱体質な児童が少なくないことに注目された神谷常俊園長が、そのような児童ばかりを集めて光輝寮分室として発足され、それが「赤羽根学園」のそもその起りである。

そして、昭和三三年に社会福祉法人光輝会、虚弱児施設「赤羽根学園」としてスタートしたのである。

### (三) 事 歴

昭三三・二・一〇 愛知県指令婦第一一三号により社会福祉法人光輝会虚弱児施設赤羽根学園設

置認可(定員三〇名)

三九・八・一〇 職員棟竣工(一五・二坪)

三九・九・二四 本館焼失(七九・五坪)



講堂正面の佛壇

三九・一一・一〇 病棟竣工（一六・八四坪）お年玉配分による。

四〇・二・一六 本館復興（八四・二四坪）競輪利益配分による。

四〇・八・二七 赤羽根学園復興竣工式

四三・一・一〇 保育室、居室の増改築竣工（三二・八一七㎡）競輪利益金配分による。

四五・三・三〇 浴室改築

五〇・一・三〇 防護柵完成

五三・一・一〇 給食棟改築（一〇九・六二㎡）

#### 四 児童日課

午前六・〇〇 起床・洗面、ラジオ体操、掃除・朝の会

七・〇〇 朝食、後片づけ

七・三〇 登校

九・〇〇 検温（幼児）

一〇・〇〇 保育（幼児）

一一・〇〇 学校（学童）

一二・〇〇 昼食

午後一・〇〇 午睡（幼児）

二・〇〇 検温（幼児）

三・〇〇 おやつ

四・〇〇 保育（幼児）

低学年学習

入浴（幼児）  
五・〇〇 掃除・夕食

検温（学童）

六・〇〇 入浴

自由時間

七・〇〇 テレビ、読書・日記

八・〇〇 明日の用意

九・〇〇 高学年学習

一〇・〇〇 消燈

#### (四) 行事予定

一月 正月、児童カルタ会、反省会、誕生日会。

二月 節分豆まき、反省会、誕生日会

三月 ひな祭り、誕生日会、防火反省会、就職激励会、

（児童入退所）

四月 花まつり、反省会、誕生日会、大掃除

五月 子どもの日、遠足、誕生日会、反省会

六月 誕生日会、反省会

七月 誕生日会、反省会

八月 七夕祭、盆おどり、花火大会、夏の家  
九月 誕生日会、反省会

一〇月 誕生日会、反省会

十一月 東三児童収容施設総合運動会、誕生日会、反省会

十二月 年越し福引大会、誕生日会、反省会

※その他 毎月身体測定、一・二・一二月には防火・避難訓練、その他の月は避難訓練が行なわれる。また、定例として職員会議（月）、健康診断（木）、週例として寝具消毒、交通安全指導、保健指導、器材消毒が行なわれている。

#### (五) 職員及び児童（昭五七・七・一現在）

##### ① 職員構成

施設長 一

児童指導員 二

保母・看護婦 七

嘱託医師 (一)

書記 一

栄養士 一

雇員 三 (一)

(一) は嘱託



ていった一つの結果ではないか、と思われる。そして現在、この学園にいる子どもは、身体的な虚弱児よりも精神的な虚弱児であると考えられ、その点では極めて現代的様相を呈しているともいえる。

戦後、児童福祉法の制定と共に、自坊光輝院の教化育成事業として、里子の養育をはじめられ、それを養護施設へと発展させられ、その実践のなかから、更に虚弱児施設赤羽根学園を創設された故神谷常俊師の御努力に敬意を払うものである。なお、お忙しいにもかかわらず御協力下さいました新美輝男園長先生をはじめ職員の皆さまに感謝の意を捧げると共に、尚一層の御精進を願ひ、赤羽根学園のより一層のご発展をお祈り申し上げます。

(注)

- (1) 全国社会福祉協議会『現代社会福祉事典』
- (2) (1)と同書
- (3) 「児童福祉法による虚弱児療育施設に收容する虚弱児の基準に關する件」(昭和二三年六月一八日、児発三六八号)